

コミュニケーション技術

問題 33 コミュニケーションに関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 「なぜ」「どうして」の聞き方は問い詰められているように相手を感じることもある。
- 2 まず相手との関係づくりが大切である。
- 3 自分の非言語的な行動が持つメッセージを意識しておく。
- 4 よく知っている人であるという思い込みが、相手の心情を見えにくくする。
- 5 相手との親密度に関係なくパーソナル・スペースは一定である。

問題 34 コミュニケーションの基本に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 自分自身の感情に気付く。
- 2 伝えたいことを明確に伝える。
- 3 相手の言葉が出にくいときは次々と話しかける。
- 4 状況に応じて技法を使い分ける。
- 5 相手をありのまま受け止める。

問題 35 高齢になってからの中途失聴者のコミュニケーション手段として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 読話
- 2 筆談
- 3 点字
- 4 手話
- 5 指文字

問題 36 失語症(aphasia)の人のコミュニケーションに関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 感覚性失語のある人には、五十音表を用いる。
- 2 感覚性失語のある人には、絵カードを用いる。
- 3 感覚性失語のある人には、手話を用いる。
- 4 運動性失語のある人には、大きな声で話をする。
- 5 運動性失語のある人には、「はい」「いいえ」で答えられる質問をする。

問題 37 介護記録に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 介護を実施したその日のうちに行う。
- 2 訂正は修正液で行う。
- 3 情報保護のため電子メールで利用者情報を送信する。
- 4 すぐに記録できるよう記録類は机の上に広げておく。
- 5 勤務時間内に記録できなかった場合は自宅で行う。

問題 38 介護職が申し送りで、利用者の状態を報告するときの発言として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 「本日朝6時に少量の胃液を嘔吐した」
- 2 「嘔吐したので、胃腸薬の服用が必要である」
- 3 「気分が悪そうだったので、かわいそうに思った」
- 4 「少しだけ嘔吐した」
- 5 「嘔吐したが、排泄は順調であるため問題ないと思われる」

問題 39 Hさん(79歳, 女性)は一人暮らしである。夫は6か月前に死亡した。夫の死後すぐに脳梗塞(cerebral infarction)を起こし入院, 軽い構音障害が残った。2か月後退院し在宅での生活となり, 訪問介護員が初回訪問した。

訪問介護員の対応として, 最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 訪問介護員が自分の生き立ちについて話した。
- 2 Hさんを理解するため夫の死亡について詳しくたずねた。
- 3 話が聞き取れないときも分かったふりをした。
- 4 Hさんの言葉にうなずきながらゆっくりと話を聴いた。
- 5 訪問介護員が予定した質問を中心に会話を進めた。

問題 40 Jさん(80歳, 男性)は, 嚥下機能が低下し食事摂取量が減少した結果, 低栄養状態が問題となっている。この問題を検討するカンファレンスの参加者は, 介護福祉士と施設長, 医師, 看護師, 管理栄養士であった。

介護福祉士の参加のあり方として, 最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 発言するときは, 施設長の意見に合わせて発言する。
- 2 話を聞くときは, 少数意見より多数意見を重視する。
- 3 分からないことは会議中に質問せず, 会議後に調べる。
- 4 参加者間で意見の不一致があっても議論し, 合意点を見いだす。
- 5 低栄養に関する問題なので, 医師の意見に従う。